

肺がん、胃がん

など全9分野を専門医が厳選

# 本当に手術が巧い がん外科医リスト

107人 完全保存版



東京都がん協会の代表  
鳥集徹 先生  
とそこの手術の様子

ジャーナリスト 鳥集徹 + 本誌取材班

1970年生まれ。同志社大学。本誌専ら医療関係の記事を多数執筆。今年5月、京都府と奈良県との産学連携協定の策定を機に、大阪府の産学連携センターに勤務中。

「その場が少なく回復も早い」といわれている。モーターに換る前後の準備が整えられ、手術器具の操作に慣れる必要があることから、開胸や開腹の手術よりも一般的には難しいとされている。とはいえ、熟練の外科医が適切に症例を選び、慎重に実施すれば、必ずしも危険な手術ではない。

胃がんや大腸がんでは、腹腔鏡下手術がかなり普及している。全国的に見て、これらのがんでは、すでに約半数に腹腔鏡下手術が適用されている。今回名前があがった胃がん、大腸がんの医師の多くも、腹腔鏡の名手とされる人たちが多かった。

腹腔鏡下手術を受けるなら、日本内視鏡外科学会の技術認定を取得しているかどうか、医師をよまうの目安となるだろう。たのし手術では、死に事例の報告された。大腸がんの手術の多い二医師（大腸がん）は、技術認定は「プロフェッショナル」ではない。この点について、さらに情報を得る

「リスクの高い手術を手がける外科医なら、誰も手術を躊躇することがあります。とはいえ一人でも亡くなれば、次の手術をするのが怖くなり、立ち直るまで数ヶ月はかかります。患者さんが何人も亡くなっているのに、手術をけられた患者が私にはわかりません」とある肝臓外科医が、率直な思いを吐露してくれた。

昨年十一月、群馬大学医学部附属病院で計けた患者八人が相次いで死亡していたことが露見。さらに同様の手術を受けた患者十一人が相次いで亡くなっていったことが明らかになった。

同病棟のような無罪な手術をしている病院は他にはないと感じた。だが、今回取材したある外科医は、他院での医療事故などの認定依頼を受けている経験から、このような事例は「雪山の一角」と言い切った。「私は、すんなり手術をしたという事例をいくつも見てきましたし、しかし、出来たにやむを得なかった」とい

出血量がわずかに約百五十CC

「がんも、腹腔鏡下手術を実施する施設が増えている。順天堂大学の医学部附属順天堂病院の鈴木啓司医師も、安全に手術できる患者にはこの手術を適用しているという。ただし、腹腔鏡にこだわらずるのは危険」と手術を唱える。

「がんの手術はあくまで根治と安全が第一。腹腔鏡は従来の開胸手術に比べて熟練が必要で、大出血などへの対応が遅れて致命的な状況になる場合があります。また、開胸よりも背に手術できるようにになりました。そう考えると、腹腔鏡だけの手術にこだわるメリ

「胸腔鏡」と「腹腔鏡」の名手たち

調査は、順天堂がん（胃がん、食道がん、大腸がん）、がん、食道がん、胃がん、肝臓がん、前がん、胆膵がん、膵がん、大腸がん、乳がん、泌尿器がん、腎臓がん、膀胱がん、前立腺がんなど、婦人科がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）の九分野を対象とした。いずれも、患者数の多いがんだ。

今回、取材にあたって意識したのが「胸腔鏡」や「腹腔鏡」などを使った、低侵襲大病院や千葉県がんセンターの一件は大きな衝撃だった。大学病院や地域の拠点となる病院が信じられなければ、何を基準に病院や

「がんの手術は、開胸が少なく回復も早い」といわれている。モーターに換る前後の準備が整えられ、手術器具の操作に慣れる必要があることから、開胸や開腹の手術よりも一般的には難しいとされている。とはいえ、熟練の外科医が適切に症例を選び、慎重に実施すれば、必ずしも危険な手術ではない。

胃がんや大腸がんでは、腹腔鏡下手術がかなり普及している。全国的に見て、これらのがんでは、すでに約半数に腹腔鏡下手術が適用されている。今回名前があがった胃がん、大腸がんの医師の多くも、腹腔鏡の名手とされる人たちが多かった。

腹腔鏡下手術を受けるなら、日本内視鏡外科学会の技術認定を取得しているかどうか、医師をよまうの目安となるだろう。たのし手術では、死に事例の報告された。大腸がんの手術の多い二医師（大腸がん）は、技術認定は「プロフェッショナル」ではない。この点について、さらに情報を得る

「胸腔鏡」と「腹腔鏡」の名手たち

調査は、順天堂がん（胃がん、食道がん、大腸がん）、がん、食道がん、胃がん、肝臓がん、前がん、胆膵がん、膵がん、大腸がん、乳がん、泌尿器がん、腎臓がん、膀胱がん、前立腺がんなど、婦人科がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）の九分野を対象とした。いずれも、患者数の多いがんだ。

今回、取材にあたって意識したのが「胸腔鏡」や「腹腔鏡」などを使った、低侵襲大病院や千葉県がんセンターの一件は大きな衝撃だった。大学病院や地域の拠点となる病院が信じられなければ、何を基準に病院や

伊藤雅昭	国立がん研究センター東病院 大腸外科長	千葉県柏市柏の葉 6-5-1 ☎ 04-7133-1111	大腸がんの中でも直腸がん手術の比率が高いのが特徴で、根治性だけでなく排便・排尿・性功能をできるだけ残す機能温存手術に取り組んでいる。
福永正氣	順天堂大学医学部附属浦安病院 副院長兼外科診療部長	千葉県浦安市富岡 2-1-1 ☎ 047-353-3111	1993年、いち早く大腸がんの腹腔鏡下手術を開始、手術数は2000例を超える。単孔式腹腔鏡下手術や肛門温存手術など先進的な手術も積極的に導入している。
黒柳洋弥	虎の門病院 消化器外科（下部消化管） 部長	東京都港区虎ノ門 2-2-2 ☎ 03-3588-1111	ほぼ全例に腹腔鏡下手術を実施。総合病院の長所を生かし、合併症がある患者も他科と連携して対応。放射線や化学療法を駆使した肛門温存にも取り組む。
福長洋介	がん研有明病院 消化器センター大腸外科副 部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	大腸がんの腹腔鏡下手術に黎明期から取り組んできた。「大腸がんは手術で治す」をモットーに全てのがんを取りきる心構えで手術にのぞむ。
小西毅	がん研有明病院 消化器センター大腸外科副 医長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	年間700件以上と日本一の手術数。95%以上を腹腔鏡で手術。高度進行大腸がんも、化学療法・放射線と組み合わせ、完治と肛門温存を目指す。
國場幸均	聖マリアンナ医科大学横浜 市西部病院 消化器・一般外科教授（副院長）	神奈川県横浜市旭区矢指町 1197-1 ☎ 045-366-1111	草創期から腹腔鏡下手術に取り組む。最新の低侵襲手術である直腸がん NOSE 手術などを実施。進化した手術を定型化して安全に普及させるよう努めている。
渡辺昌彦	北里大学病院 一般・消化器外科科長	神奈川県相模原市南区北里 1-15-1 ☎ 042-778-8111	1992年に国内で初めて腹腔鏡による大腸がん手術を執刀した第一人者。「最先端の医療技術を最高のチームワークで」がモットー。
絹笠祐介	静岡県立静岡がんセンター 大腸外科部長	静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007 ☎ 055-989-5222	腹腔鏡下手術に積極的で、直腸がんのロボット手術では日本一の実績を持つ。少ない合併症等、優れた手術成績を有し、進行がんには拡大手術も行う。
上原圭介	名古屋大学医学部附属病院 消化器外科一講師	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 ☎ 052-741-2111	次代を担う大腸外科医として評価が高い。腹腔鏡下手術の腕に定評があるだけでなく、ロボット手術にも2010年8月から取り組んでいる。
奥田準二	大阪医科大学附属病院がんセンター 先端医療開発部門（消化器 外科）特務教授	大阪府高槻市大学町 2-7 ☎ 072-683-1221	腹腔鏡下手術のバイオニアの一人。年間500件以上の手術のうち6割が難易度の高い直腸がん。より質の高い手術を目指し、立体視できる3D腹腔鏡に取り組む。
坂井義治	京都大学医学部附属病院 消化管外科科長	京都府京都市左京区聖護院川 原町 54 ☎ 075-751-3111	腹腔鏡下手術ばかりでなく、直腸がんにはロボット手術も実施。放射線、化学療法も併用し、人工肛門の回避と再発を減らす治療を目指す。
長谷川傑	京都大学医学部附属病院 消化管外科講師	京都府京都市左京区聖護院川 原町 54 ☎ 075-751-3111	坂井教授とともに腹腔鏡下手術のエキスパートとして評価されている。2011年9月からロボット手術も導入。体の負担の少ない手術の開発に取り組む。
関本貢嗣	国立病院機構大阪医療セン ター 副院長	大阪府大阪市中央区法円坂 2-1-14 ☎ 06-6942-1331	大腸がんのほとんどに腹腔鏡下手術を実施し、直腸がんはできるだけ自然肛門と神経の温存を目指す。超進行がんや再発がんもあきらめない治療を実践する。
竹政伊知朗	大阪大学医学部附属病院 消化器外科（下部消化管、肝、 胆）診療局長	大阪府吹田市山田丘 2-15 ☎ 06-6879-5111	大腸がんの腹腔鏡下手術を担う次代のリーダーの一人。単孔式手術からロボット手術まで高い技術と豊富な経験を武器に、最良の低侵襲治療法を提案する。

金平永二	メディカルトピア草加病院 院長・外科診療顧問	埼玉県草加市谷塚 1-11-18 ☎ 048-928-3111	金平内視鏡外科研究所 (ELK) を主宰。胃がんだけでなく、胃 GIST、胃粘膜下腫瘍、肛門から行う直腸がん手術も世界トップレベル。
木下敬弘	国立がん研究センター東病院 胃外科長	千葉県柏市柏の葉 6-5-1 ☎ 04-7133-1111	腹腔鏡下手術やロボット手術だけでなく、難易度の高い上部胃がんの手術や化学療法で縮小した高度進行胃がんに対するコンバート手術も手がける。
福永哲	順天堂大学医学部 消化器・低侵襲外科教授 (勤務・同医学部附属浦安病院)	千葉県浦安市富岡 2-1-1 ☎ 047-353-3111	1994年に胃がんの腹腔鏡下手術を開始した日本のパイオニアの一人。手順を踏めば安全かつ確実に行える「福永方式」と呼ばれる手術法を確立した。
片井均	国立がん研究センター中央病院 胃外科科長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	4人の固定スタッフで年間約400件以上の手術を実施。治す、機能温存、小さな傷の優先度で治療している。手術関連死は過去5年2000例でゼロ。
小嶋一幸	東京医科歯科大学医学部附属病院 胃外科科長	東京都文京区湯島 1-5-45 ☎ 03-3813-6111	1999年から胃がんの腹腔鏡下手術を開始。日本有数の手術数。同大低侵襲医歯学研究センター長を兼任。腹腔鏡下手術の安全な普及に努める。
佐野武	がん研有明病院 消化器センター長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	消化器内科と消化器外科が協力し、「消化器センター」として集学的治療を提供。患者の体への負担を考へて、早く出血の少ない手術に努めている。
稲木紀幸	石川県立中央病院 消化器外科診療部長	石川県金沢市鞍月東 2-1 ☎ 076-237-8211	治療ガイドライン、患者の年齢、リスクなどを考慮して治療方針を決定。腹腔鏡や胸腔鏡を積極的に導入し、侵襲の少ない手術治療を提供している。
宇山一朗	藤田保健衛生大学病院 上部消化管外科教授	愛知県豊明市杣掛町田楽ヶ窪 1-98 ☎ 0562-93-2111	1997年に胃全摘手術を腹腔鏡下手術で実施した日本のパイオニア。2009年にはいち早く胃がんのロボット手術を実施。その技術向上と発展に努める。
金谷誠一郎	大阪赤十字病院 第二消化器外科部長	大阪府大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-30 ☎ 06-6774-5111	胃がんの腹腔鏡下手術に10年以上の実績。原則として進行がんも含めた全症例に腹腔鏡下手術を実施。食道がんの胸腔鏡、腹腔鏡下手術も手がける。